

情報通信審議会情報通信技術分科会（第92回）議事録

1 日時 平成25年1月18日(金) 10時57分～11時11分

2 場所 総務省8階第1特別会議室

3 出席者

(1) 委員（敬称略）

相澤 彰子、青木 節子、石戸 奈々子、伊東 晋、近藤 則子、鈴木 陽一、
須藤 修、知野 恵子、徳田 英幸、服部 武、前田香織、吉田 進（以上12名）

(2) 総務省

（情報通信国際戦略局）

桜井 俊（情報通信国際戦略局長）、久保田 誠之（官房総括審議官）、

田中 宏（技術政策課長）、布施田 英生（通信規格課長）

（総合通信基盤局）

吉良 裕臣（総合通信基盤局長）、武井 俊幸（電波部長）、

杉野 勲（電気通信技術システム課長）、竹内 芳明（電波政策課長）、

山崎 俊巳（衛星移動通信課長）

(3) 事務局

松村 浩（情報通信国際戦略局情報通信政策課管理室長）

4 議題

(1) 分科会長の選出及び分科会長代理の指名について

(2) 委員会主査及び委員会構成員等の決定について

(3) 「2GHz帯等を用いた移動衛星通信システム等の在り方及び技術的条件」について

開 会

○松村管理室長　それでは、ただいまから情報通信審議会第9 2回情報通信技術分科会を開催いたします。

私は、事務局を担当しております情報通信国際戦略局管理室長の松村でございます。本日は、技術分科会長が選出されますまでの間、議事の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の議事次第に従い、議事を進めてまいりたいと思います。本日、委員15名中12名のご出席をいただいておりますので、定足数を満たしております。

まず資料9 2といたしまして、総務大臣から指名されました情報通信技術分科会に所属していただく委員の方の名簿を配付させていただいておりますので、ご確認いただければと思います。

分科会長の選出及び分科会長代理の指名について

○松村管理室長　次に、分科会長の選出をお願いしたいと思います。

情報通信審議会令第5条第4項の規定により、分科会長は委員の互選により選任することとなっておりますので、どうぞ、委員の皆様方からご推薦をお願いしたいと思います。お願いします。

○鈴木委員　皆さん深いご見識・ご経験をお持ちの方ばかりだと思っておりますけれども、これまでこの分科会の分科会長代理を務めてこられまして、また先ほどの審議会でも会長代理に就任されることになりまして、情報通信分野、技術分野に非常に幅広い知識・経験をお持ちの徳田委員が適任ではないかと考えます。

したがって、私は徳田委員をご推薦申し上げます。

○松村管理室長　ただいま鈴木委員から徳田委員のご推薦がありましたけれども、皆様いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○松村管理室長　それでは、徳田委員に分科会長をお願いしたいと思います。

ここからの議事進行は徳田分科会長にお願いします。どうぞ、分科会長席にお移りい

ただきたいと思います。

○徳田分科会長　それでは、お手元の議事次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。

初めに、ただいま分科会長に選出されましたので、一言ご挨拶させていただければと思います。

私は、坂内分科会長のもとで分科会長代理をさせていただいていた関係で、今回、この重要なポジションを拝命いたしましたと理解しております。本分科会は、情報の電子的流通及び電波の利用の技術に関するICT施策の重要事項を調査・審議する重要な会だと理解しております。

先ほどの総会で大臣のお話がありましたように、あらゆる産業を下支えする、それから私たち大学の分野ですと、あらゆる研究開発を加速する上でICTの利活用が非常に大事な側面になってきておりますので、私としましては、この分科会会長という重責を果たすべく努力してまいりますので、委員の皆様にもご審議に積極的にご協力いただきますようお願い申し上げます。どうぞ、よろしく願いいたします。

次に、私が分科会長として情報通信技術分科会を主催できない場合の代行をお願いする分科会会長代理を決めていきたいと思います。分科会長代理は、情報通信審議会令第5条第6項の規定により、分科会長が指名することとなっておりますので、私から指名させていただければと思います。

分科会長代理には、伊東委員をお願いいたしたいと思いますが、伊東委員、よろしゅうございますでしょうか。

○伊東分科会長代理　承知いたしました。

○徳田分科会長　よろしく願いいたします。

それでは、どうぞ、こちらの分科会長代理席のほうにお移りください。

委員会主査及び委員会構成員等の決定について

○徳田分科会長　続きまして、ITU部会構成員、情報通信技術分科会下の委員会主査及び委員会構成員を決定したいと思います。ITU部会及び委員会の構成員、部会長及び主査は、私、分科会長が指名することとなっておりますので、これからお配りします名簿のとおりといたしたいと思います。

(資料配付)

○徳田分科会長 名簿をご確認いただければと思います。よろしいでしょうか。

各委員会の構成員の皆様におかれましては、精力的な調査・検討をお願いいたします。

衛星通信システム委員会につきましては、名簿を配付せず、構成員を決定後、事務局よりご連絡させていただければと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

「2GHz帯等を用いた移動衛星通信システム等の在り方及び技術的条件」について

○徳田分科会長 それでは、先ほど総会において付託されました「2GHz帯等を用いた移動衛星通信システム等の在り方及び技術的条件」について、総務省よりご説明をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

○山崎衛星移動通信課長 衛星移動通信課長の山崎でございます。それではお手元の資料の92-2の資料でご説明申し上げたいと思います。具体的には92-2-2の資料のほうでご説明申し上げます。A4横の資料でございますので、お手元のほうにご用意いただければと思います。

まず、「2GHz帯等を用いた移動衛星通信システム等の在り方及び技術的条件」についての諮問でございますが、概要といたしましては、最初の丸にございますように、衛星通信につきまして上空・海上・離島、それから山間等における通信手段として、平時に加えて一般的に災害時に強いシステムということで、重要な役割を果たしているという認識はあろうかと思えます。それから、さきの東日本大震災を受けた新たな衛星通信技術が生まれておりまして、今般、2GHz帯等を用いた移動衛星通信システムのまさにその在り方と、その技術的条件について諮問させていただくということの内容になっております。

少し背景についてご説明いたしますと、お手元の資料の右側にございますように、現在1.5/1.6GHz帯におきましては、移動衛星サービスとしてインマルサット、イリジウム、新たにスラヤのサービスが国内でこの2月から予定されるという方向になっております。表にありますように、2GHz帯につきましては移動衛星、移動の業務ということで周波数分配がされておりますが、現時点においてはこれからサービスを進めていくために、まさにこれを審議をいただくものでございます。それから2.5/2.6

GH z 帯につきましては、既にN-S T A R という移動衛星のサービスが展開しているわけでございます。さらに、12/14 GH z 帯におきましても、固定衛星・移動衛星業務ということで、可搬型の地球局や船舶地球局、それから車載搭載型の地球局、ヘリサットということで、サービスが展開もしくは準備されているという状況でございます。

それから海外では、米国を中心としながらGPSのサービスが行われておりますが、国内におきましても現在、政府内閣府で準天頂衛星を用いた実験局で運用しているわけですが、実用化に向けた検討が進められているというふうに承知しております。

それから、先ほど申し上げたように、東日本大震災を受けました新たな衛星通信ニーズとして、民間のほうでもいろいろなさまざまな検討がされているというふうに承知しております。

さらに、諮問の内容を「2 GH z 帯等」とさせていただいておりますが、衛星の場合につきましては後継機の衛星の問題や、さらにはLバンド、いわゆる測位サービスということも想定されますので、他の周波数帯についても検討いただくということで「2 GH z 帯等」としております。

具体的なスケジュールにつきましては、2 GH z 帯の利用のあり方につきましては、先ほど申し上げた新たな衛星通信ニーズというものをきちんと把握した上でということで、まずは利用方法につきまして平成25年内の可能な限り早い時期に答申をお願いしたいと考えております。その上で、最終的に周波数の国際調整等を行う必要がございますので、あわせて27年度を目途に技術的条件等につきましても答申をいただきたいということでございます。

説明は以上でございます。

○徳田分科会長　　どうもありがとうございました。

本件につきまして、ご意見・ご質問がございましたら、お願いいたします。鈴木委員。

○鈴木委員　　先ほどの審議会でコストの話が出てまいりましたけれども、それも含めて、システムをきちんといざという時に使えるという観点からも、ふだん使い、平時にどうやって活用していくかという観点も非常に重要だと私は考えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○徳田分科会長　　どうもありがとうございます。ほかに。どうぞ。

○近藤委員　　すみません。本件については、国内の事業者がやるという前提なのか、それともこういうことをやる人たちを世界中から公募して、よい運用ができるところを日

本のために考えていただくというあり方なのでしょうか。

○山崎衛星移動通信課長 事業主体につきましては、国内法人ということになるかどうかと思います。

○近藤委員 なるほど。これからこういうことをやる人たちを探しますということですか。選定について、今どき例えば電波オークションとかいろいろ巷では言われていますけれども、そういうものの対象にしましょうかということなのでしょうか。

○山崎衛星移動通信課長 オークションとは別の形で進めさせていただくということでございます。

○近藤委員 わかりました。

○山崎衛星移動通信課長 もちろん、今、近藤委員からご指摘がありましたように、民間からのいろいろなアイデアということにつきましては、まさにこの審議会で意見聴取させていただく中で整理していただければというふうに考えております。

○近藤委員 ありがとうございます。

○徳田分科会長 ほかにご意見・ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

これは非常に大切な技術ですので、先ほども議論がありましたように、非常に幅広い範囲でいろいろな利用方法等を、平時も含めてぜひ深く議論していただければと思います。よろしくお願いいいたします。

それでは、本件につきましては、衛星通信システム委員会において検討していただき、その結果を報告いただいた上で、当分科会で審議し、答申をまとめることとしてはいかがかと思えます。

なお、衛星通信システム委員会につきましては、主査は服部委員とし、その他の構成委員を決定次第、事務局より連絡させることとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい。よろしければ、その旨決定させていただきたいと思えます。

服部委員、よろしくお願いいいたします。

それでは、以上で本日の議題は終了いたしました。

委員の皆様から、その他何かございますでしょうか。

○近藤委員 はい、先生。

○徳田分科会長 どうぞ。

○近藤委員 委員の半数が女性になったのはすごいなと思って感動しています。

○徳田分科会長　　すごいでけではなくて、持続していかなければいけないと思いますので、よろしくお願いします。

○近藤委員　　総務省は進んでいますね。

○徳田分科会長　　あまり持ち上げると、ほかの委員会が大変になるかと思ひます。それでは、事務局から何かございますでしょうか。

○松村管理室長　　特にありません。

閉　　会

○徳田分科会長　　それでは、本日の会議は終了といたします。

次回の日程につきましては、1週間後の1月25日金曜日13時からを予定しております。皆様方、よろしくお願いいたします。

以上で閉会といたします。どうも、ご協力ありがとうございました。